

船曳網の漁況経過と春シラス漁の見通し

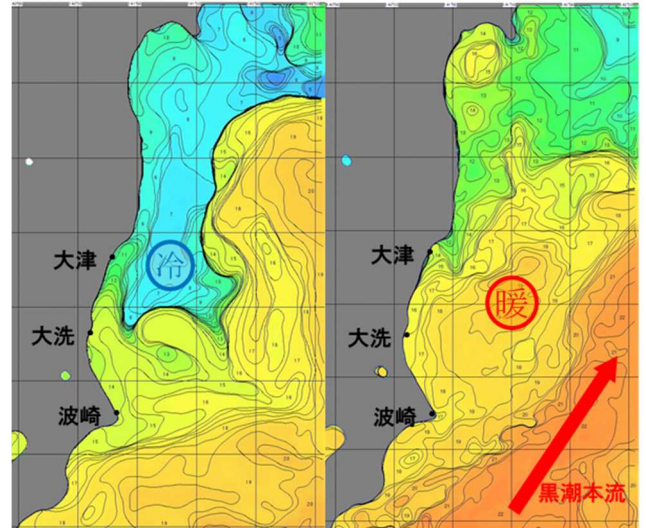
(1) 船曳網（シラス）の漁況経過について

今年のシラスは、2月の県内合計漁獲量が26トンと昨年並でしたが、その後、3月～5月7日現在までの合計漁獲量は7.5トンと、昨年の843トンと比べて極めて少ない状況となっています。

また、マシラス（マイワシシラス）の割合は、2月～4月で平均約30%と昨年同様に例年より高くなっています。

このような状況で不漁となった原因は、3月下旬から4月にかけて本県沿岸域の表層に親潮系冷水が南下し、黒潮からのイワシ類卵稚仔魚の供給が少なかったためと考えられます（右図）。

現在は黒潮系暖水の影響が強まり、表層水温は全域で平年並となっています。



図：NOAA 水温画像（左 4/16、右 5/6）

(2) 春シラス漁の見通しについて

①イワシ類の親魚資源・卵稚仔魚の現況

カタクチイワシ産卵親魚は低水準となっています。また、4月18日に行った銚田市玉田沖の調査では、カタクチイワシ卵稚仔魚は採集されませんでした。

マイワシ産卵親魚は近年増加傾向にあります。稚仔魚は採集されませんでした。なお、マイワシの産卵は5月頃までなので、6月以降の採集は見込めません。

②海況の見通し

海況予測モデル FRA-ROMS（国立研究開発法人水産研究・教育機構-中央水産研究所）によると、6月上旬～下旬の表層水温は黒潮からの暖水の影響が強くなり、「やや高め」で推移すると予測されています。

③漁況の見通し

近年では、カタクチイワシ資源が低水準で、4月の卵稚仔魚の採集量も少ない状況でした。しかし、このような状況でも水温が高めに推移すると春のカタクチシラス漁獲量が増加する傾向にあります。このため、5月上旬までの漁獲は冷水南下の影響を強く受け低調でしたが、今後、水温上昇に伴いカタクチシラスの漁獲が期待できます。

以上のことから、今年の春シラス(2～7月合計)の漁獲水準は、これからカタクチシラスを主体に「中漁(300～1,300ト)」となり、近年5カ年平均1,865ト、昨年の1,665トには及ばないと予測されます。

(回遊性資源部 高橋 佑太郎)